

芦屋大学論叢 第76号

(令和4年3月24日)抜刷

森のようちえんの園児の
社会情動的スキルの育ちに影響を与える要因

—園での生活経験と保護者のかかわりに焦点を当てて—

大 谷 彰 子

森のようちえんの園児の社会情動的スキルの育ちに影響を与える要因

—園での生活経験と保護者のかかわりに焦点を当てて—

大谷 彰子
芦屋大学臨床教育学部

1. 目的

本稿は、森のようちえんに通う子どもの社会情動的スキル（非認知能力）の育ちの実態を、既存園の子どもと比較することで把握し、その育ちに影響を与える要因を「園での生活経験」と「母親のかかわり」の観点から明らかにすることを目的とする。

OECD（2018）は、ウェルビーイングや社会進歩につながるスキルを『whole child(全人教育)』を対象にバランスのとれた認知的スキルと社会情動的スキル」とし、その発展の必要性について言及している。そして、その社会情動的スキルの内容を「目標の達成（がんばる力、自己抑制、目標への情熱）」「情動の抑制（自尊心、楽観性、自信）」「他者との協働（社交性、敬意、思いやり）」の3要素と定義している。子どもたちにとって社会情動的スキルの育成は、急激に変化する経済格差の増大や少子高齢化、自然災害や感染症の蔓延、グローバル化など数多くの問題に直面する不確実・予測不可能な社会を生きていく上で、認知的スキルの育成とともに重要な課題である。無藤ら（2018）は、社会情動的スキルに相当する言葉として『学びに向かう力』という用語を用い、幼稚園教育要領等において、すべての子どもに育成すべき「資質・能力の3つの柱」として、「知識・技能の習得」、「思考力、判断力、表現力等の育成」とともに、「学びに向かう力、人間性」を挙げている。

森のようちえんなど自然環境との直接体験での育ちについて、幼稚園教育要領（2017）の領域「環境」に、「幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われる」と記載されており、自然環境を活かした直接体験が社会情動的スキルの育成に効果的な手段の一つとして重要視されている（征矢・木俣 2018）。これまで日本の森のようちえんは、国の基準に合致しない園舎などの環境や独自の保育内容をおこなっている等の理由で認可を受けられず、NPO 法人や認可外保育施設として活動している園が多く（木戸 2015）、あくまでも既存園の「オルタナティブ」として、私的な家庭教育の延長上にあるとされてきた（山口 2016）。しかし、自然保育が社会情動的スキルを身につける上で効果的であるとの認識の高まりと、保護者の保育ニーズや価値観の多様化を背景に、2021年1月現在 NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟に登録されている団体が大小合わせて 249 団体と増加している。そして、自然体験活動を基軸とした森のようちえんの保育の趣旨に賛同し、連盟に登録する認可幼稚園や認定こども園等も増加している。

これまで、森のようちえんの子どもの社会情動的スキルの育ちに関する研究には、吉澤ら（2021）が、10の姿の特徴を認可保育園との比較から検証し、木戸（2016）は、自然の中では保育者の了解を得ずに自分で考えて遊ぶことで主体的で自立的な育ちがあることを示唆している。他に観察力や好奇心の育ちについては河崎（2016）、水谷・今村（2014）、協調性や協働性については柳原（2018）、杉山ほか（2015）、挑戦や忍耐力の育成については金子・西澤（2017）、西澤ほか（2016）、卒園児のレジリエンスと自尊感情について

ては（山口ら 2021）などの実践研究が報告されている。

このように、森のようちえん等、自然環境での子どもの主体的な活動を保育の中心に据える体験が、多様な社会情動的スキルを向上させることについては近年多角的に検証されている。しかし、「忍耐力や社交性、自尊心といった社会情動的スキルを育成するために『何が効果的か』についての認識はしばしば不十分な点」（OECD 2018）があるとされるように、社会情動的スキルの育ちにもたらす教育的効果の要因についての研究は少数である。幼児期の生活や教育のあり方と、社会情動的スキルの発達との関連を幼稚園、保育所などで大規模に調査した先行研究として、無籐らとベネッセの協同研究（2016, 2019）が挙げられる。そこで、本研究はこの研究を比較対象とし、森のようちえんと一般の就学前施設（幼稚園、保育所、認定こども園等）との「学びに向かう力」の育ちの比較調査を実施し、森のようちえんの保育が、社会情動的スキルの向上に影響を与える要因を検討する。

2. 方法

2.1 対象者

全国の日常型森のようちえん 98 園の保護者 632 件（配布数 2900 通，回収率 21.8%）。

2.2 調査時期

2021 年 2 月～3 月に自記式アンケートを各園に郵送し，2021 年 3 月～4 月に回収した。自記式アンケートに QR コードを添付し，Web によるアンケート記入も可能とした。

2.3 分析方法

本研究でのアンケートは，NPO 法人ネイチャーマジック森のようちえんさんぼみち 野澤俊索理事長と共同で作成したものである。質問項目は，ベネッセ教育総合研究所（2016）「幼児期から小学校 1 年生の家庭教育調査 縦断調査 第 5 回幼児の生活アンケート（1995 年より 5 年ごとに実施している 2015 年の調査）」の「第 6 節 幼児の発達状況」から採用し，表現に若干の変更を加えたものに，森のようちえんならではの質問項目を加えて作成した。質問はすべて 4 件法で回答を求めた。比較対象として，前述のベネッセの保護者アンケート（調査地域：日本全国，対象：年少児から小学校 1 年生までの縦断調査に同意し，調査に中断することなく継続して参加した母親，サンプル数：年少 1500，年中 1460，年長 1074，調査時期：年少児 2012 年，年中児 2013 年，年長児 2014 年）の結果を用いた。以後，森のようちえんの比較対象として「既存園」と記述する。「3.4 学びに向かう力（非認知能力）の育ちと園での経験」，「3.5 学びに向かう力（非認知能力）の育ちと保護者のかかわり」の相関分析は IBM SPSS Statistics 25.0 を用い Kendall の相関係数と有意確率（両側）を表記した。

2.4 倫理的配慮

アンケートの実施に際して，NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟理事会に研究の趣旨やアンケート内容，個人情報への遵守などを説明し承認を得た。アンケートには，調査の目的・倫理的配慮を記して無記名とし，回答は統計的に処理され個人が特定されることはないこと，回答しづらい項目については，「答えられない」の選択肢を設けたことを明記した。

3. 結果と考察

3.1 園での経験

森のようちえんと既存園の5歳児の園での経験について、「遊びこむ経験」「設定的な活動」「共同的な活動」に分類された14項目の経験に、「とてもよくある」と「よくある」を選択した割合を合計し、既存園と比較したものが図1である。

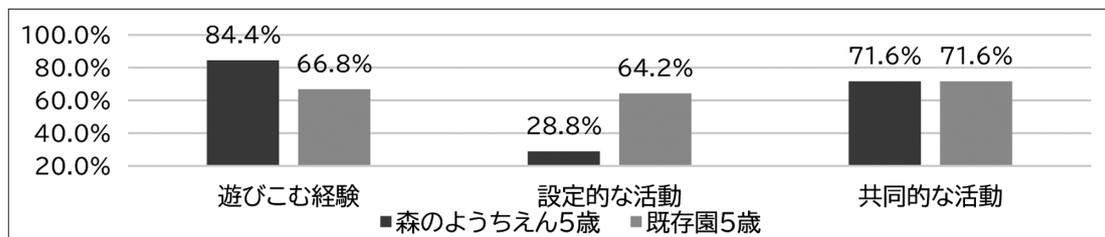


図1 園での経験の比較

既存園は、「遊びこむ経験」「設定的な活動」「共同的な活動」を概ね同程度にバランスよくおこなっている。一方、森のようちえんは「遊びこむ経験」の割合が84.4%と既存園より高く、「設定的な活動」は28.8%で既存園より30ポイント以上低かった。「共同的な活動」は、どちらも71.6%と体験割合に差は認められなかった。表1は、「遊びこむ経験」「設定的な活動」「共同的な活動」の具体的項目ごとの結果を一覧にしたものである。

表1 園での経験の項目ごとの結果

	森のようちえん5歳	既存園5歳
【遊びこむ経験】		
見通しをもって、遊びをやり遂げる。	69.0%	52.9%
先生に頼らずに製作(ものづくり)する。	75.1%	64.9%
挑戦的な活動に取り組む。	76.6%	59.1%
遊びに自分なりの工夫を加える。	94.9%	66.5%
好きなことや得意なことをいかして遊ぶ	92.4%	71.6%
自由に好きな遊びをする	98.5%	85.6%
【設定的な活動】		
見本通りに製作(ものづくり)をする。	26.9%	56.2%
小学校のように時間割に沿って活動をする。	15.2%	55.0%
先生が決めた活動をする。	34.0%	70.2%
(小学校のように)全員で同じことに取り組む。	39.1%	75.3%
【共同的な活動】		
行事の役割(劇の配役やリレーの順番など)を子どもたちが決める。	66.0%	60.4%
友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る。	85.8%	69.7%
目標に向けて友だちと協力して取り組む。	67.5%	76.0%
行事(運動会や生活発表会など)で友だちと協力し合う。	67.0%	80.2%

森のようちえんと既存園を比較し、10ポイント以上高い項目は薄いグレーに、20ポイント以上高い項目はグレー、30ポイント以上高い項目を濃いグレーに色付けし表示している。

森のようちえんが多く経験している項目は、1位が「自由に好きな遊びをする」98.5%、2位が「遊びに自分なりの工夫を加える」94.9%、3位「好きなことや得意なことをいかして遊ぶ」92.4%であり、すべて「遊び込む経験」の項目であった。森のようちえんの子どもは自分の好きな遊びを選択し、好きなことや得

意なことをいかして、自分なりの工夫を加えるなど、主体的に探究して遊んでいる様子が読み取れる。経験が少ない項目は、1位が「小学校のように時間割に沿って活動する」15.2%、2位は「見本通りに製作（ものづくり）をする」26.9%、3位は「先生が決めた活動をする」34.0%など、受動的で画一的な一斉活動の経験が少ない。【共同的な活動】の中で特徴的な項目は、「目標に向けて友だちと協力して取り組む」や「行事（運動会や生活発表会など）で友だちと協力し合う」といった友だちと協力する項目は経験が少なかった。一方で「友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る」といった、個性を認め合う項目は高い結果であった。

3.2 母親の子どもへの意識とかかわり

母親の子どもへの意識やかかわりについての20項目を5つの概念に分類し、既存園と比較したものが図2である。

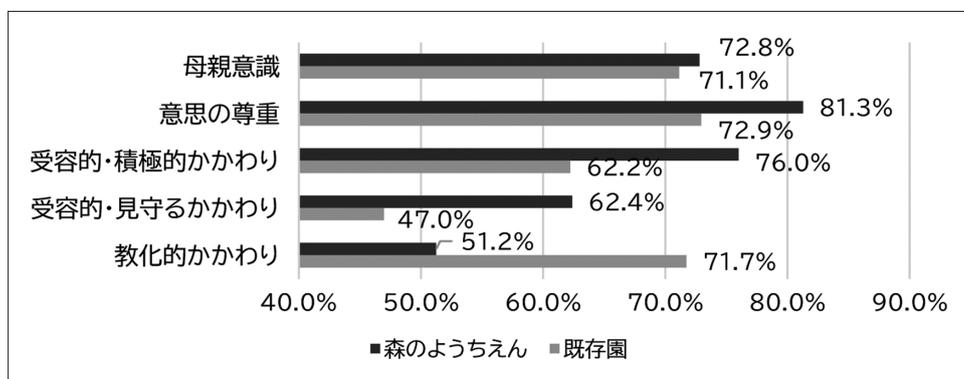


図2 母親の子どもへのかかわりの概念ごとの割合

【教化的にかかわり】以外の概念は、すべて森のようちえんの方が高い結果であり、特に【受容的・見守るにかかわり】は15ポイント以上の差、【受容的・積極的にかかわり】は10ポイント以上の差が認められた。一方で、【教化的にかかわり】は20ポイント以上低く、森のようちえんの母親は子どもの意思を尊重し、受容的に子どもに関わっており、教化的なかわりが少ないという特徴が認められた。

全概念20項目を学年ごとに集計した結果が表2である。森のようちえんと既存園を学年ごとに比較し、10ポイント以上高い項目は薄いグレーに、20ポイント以上高い項目は濃いグレーに表示している。すべての学年で10ポイント以上の差が認められた項目のうち、森のようちえんの方が高かった項目は、【受容的・積極的にかかわり】の「叱るより褒めるようにしている」、【受容的・見守るにかかわり】の「指図せずに、子どもに自由にさせている」「私がやってはいけないと言ったことを子どもがしたとき、黙ってみている」の3項目であった。一方で、「友達と仲良くするように教えている」「小学校入学までに読み書きができるようにしている」「私が決めたことに対しては、子どもに従わせている」「嫌なことがあっても、我慢するように教えている」「子どもに、何事もどんなふうにしたら良いかを、細かく教えている」といった、教える、従わせるといった【教化的にかかわり】は既存園の方が高い結果であった。

表2 母親の子どもへの意識とかかわり

【養護意識】	森のようちえん			既存園		
	年少	年中	年長	年少	年中	年長
(1)子どもの健康に気をつけている。	98.9%	99.0%	99.0%	98.9%	98.9%	98.5%
(5)子どもを傷つけるような言動をした場合は、子どもに謝る。	96.2%	93.7%	99.0%	89.7%	87.8%	87.0%
(9)子どもが何をしたいのかを把握している。	84.2%	87.3%	87.3%	79.3%	79.2%	80.8%
(19)私が一緒にいてあげないと、子どもは自分のことができないのではないかと心配になる。	12.0%	6.3%	10.7%	16.8%	17.5%	19.2%
【意志の尊重】						
(4)子どもがやりたいことを尊重し、支援している。	97.8%	96.1%	97.5%	91.8%	90.0%	91.8%
(7)叱るとき、子どもの言い分を聞くようにしている。	88.5%	90.2%	90.4%	82.5%	82.0%	81.9%
(10)どんなことでも、まず子どもの気持ちを受け止めるようにしている。	86.3%	84.9%	86.8%	77.6%	75.9%	77.3%
(18)何事にも子どもの意見や要望を優先させている。	56.8%	52.2%	47.7%	40.8%	40.3%	43.4%
【受容的・積極的にかかわり】						
(6)子どもに様々な体験をさせるようにしている。	95.6%	90.2%	89.8%	82.8%	83.1%	83.5%
(13)叱るよりも褒めるようにしている。	84.7%	76.1%	77.7%	62.1%	54.3%	54.1%
(14)子どもが何かをするとき、できるように手伝っている。	62.8%	54.6%	52.3%	51.9%	45.4%	42.8%
【受容的・見守るにかかわり】						
(8)子どもが自分でやろうとしているとき手を出さずに最後までやらせるようにしている。	90.7%	92.2%	95.4%	81.9%	82.8%	85.8%
(16)指図せずに、子どもに自由にさせている。	72.1%	68.8%	58.9%	45.4%	43.8%	44.7%
(20)私がやってはいけないと言ったことを子どもがしたとき、黙ってみている。	29.0%	25.9%	28.4%	13.0%	12.4%	13.0%
【教化的にかかわり】						
(2)子どもが悪いことをした場合、叱っている。	97.8%	95.6%	93.9%	96.7%	97.9%	97.2%
(3)友達と仲良くするように教えている。	79.2%	76.6%	76.6%	95.9%	95.6%	94.4%
(11)小学校入学までに読み書きができるようにしている。	36.6%	40.0%	42.6%	69.7%	77.8%	84.8%
(12)私が決めたことに対しては、子どもに従わせている。	39.9%	39.5%	41.1%	63.4%	63.0%	63.6%
(15)嫌なことがあっても、我慢するように教えている。	27.3%	31.7%	36.5%	48.2%	53.2%	51.9%
(17)子どもに、何事もどんなふうにしたら良いかを、細かく教えている。	21.9%	21.0%	24.4%	45.2%	46.3%	46.3%

3.3 園での経験と育ち

子どもたちの生活の様子や育ちについて48項目の質問を《生活習慣》《学びに向かう力》《文字・数・思考》の3つの上位概念と10の下位概念に分類し、「大変思う」を選択した割合を森のようちえんと既存園で比較し、学年ごとの結果と、既存園の結果を1としたときの森のようちえんの割合(単位は倍)を表したものが表3である。1.3倍以上の項目を薄いグレーに1.7倍以上の項目をグレーに、2倍以上の項目を濃いグレーで表示している。

表3 園での経験の概念ごとの比較

上位概念	下位概念	森のようちえん			既存園			比較(倍)		
		年少	年中	年長	年少	年中	年長	年少	年中	年長
生活習慣	生活習慣	32%	41%	49%	27%	33%	38%	1.21	1.22	1.33
学びに向かう力	好奇心	64%	70%	75%	52%	54%	52%	1.26	1.34	1.46
	協調性	37%	51%	62%	26%	33%	37%	1.43	1.56	1.72
	自己主張	54%	59%	63%	34%	34%	30%	1.60	1.78	2.11
	自己抑制	29%	34%	46%	16%	23%	27%	1.90	1.52	1.84
	がんばる力	23%	31%	35%	9%	13%	16%	2.54	2.50	2.16
文字・数・思考	文字	31%	53%	72%	38%	68%	84%	0.78	0.77	0.85
	数	25%	46%	64%	27%	48%	62%	1.07	1.03	1.07
	言葉	39%	53%	62%	29%	48%	57%	1.35	1.10	1.11
	分類する力	67%	73%	74%	47%	58%	65%	1.47	1.29	1.14

【文字】以外のすべての項目で森のようちえんの方が高い結果であった。差が大きかった項目はすべて《学びに向かう力(非認知能力)》であり、年長での比較の倍率でみると、1位【がんばる力】2.16倍、2位【自己主張】2.11倍、3位【自己抑制】1.84倍であった。《学びに向かう力》のうち、森のようちえんの子どもが年長で達成できている割合が高かった項目は、1位【好奇心】75%、2位【自己主張】63%、3位【協調性】62%、《文字・数・思考(認知能力)》では、1位【分類する力】74%、2位【文字】72%であった。森のようちえんでの保育では、既存園と比較し《学びに向かう力》の【好奇心】【協調性】【自己主張】【自己抑制】【がんばる力】の成長が促されて、【がんばる力】については、既存園と比較し年少から年長まで2倍以上の差が認められた。

表4 園での経験の項目ごとの比較

項目	森のようちえん			既存園			既存園との比較(倍)		
	年少	年中	年長	年少	年中	年長	年少	年中	年長
【生活習慣】									
【生活習慣】									
夜、決まった時間に寝ることができる	45%	53%	63%	31%	33%	32%	1.45	1.58	1.95
好き嫌いなく食事ができる	22%	27%	33%	16%	17%	20%	1.38	1.58	1.67
脱いだ服を自分でためる	30%	40%	52%	22%	32%	36%	1.34	1.28	1.46
1人でトイレでの排泄、後始末ができる	40%	65%	80%	35%	52%	72%	1.13	1.24	1.10
まわりの人に「おはよう」「さようなら」「ありがとう」などのあいさつやお礼を言える	40%	51%	61%	40%	43%	44%	1.02	1.18	1.38
家で遊んだ後、片付けができる	19%	12%	15%	17%	20%	22%	1.11	0.61	0.66
食事が終わるまで、席に座っていられる	26%	36%	40%	26%	33%	37%	1.01	1.07	1.07
【学びに向かう力】									
【好奇心】									
新しいことに好奇心をもてる	63%	67%	71%	54%	54%	51%	1.16	1.24	1.39
好きなことに集中して遊べる	72%	74%	83%	65%	68%	68%	1.12	1.09	1.22
工夫して遊べる	51%	63%	74%	37%	43%	46%	1.38	1.45	1.62
わからないことについて、「なぜ、どうして」など、まわりに質問ができる	63%	67%	68%	56%	58%	53%	1.13	1.16	1.29
生き物や植物に興味をもてる	69%	80%	79%	46%	45%	44%	1.50	1.77	1.81
【協調性】									
遊びなどで友だちと協力することができる	37%	57%	70%	28%	40%	45%	1.35	1.42	1.56
人に自分の気持ちを伝えたり、相手の意見を聞いたりすることができる	38%	43%	58%	21%	23%	28%	1.84	1.88	2.12
遊ぶとき、「入れて」「一緒に遊ぼう」「貸して」など友だちに声かけができる	46%	62%	67%	35%	43%	44%	1.30	1.45	1.51
友だちとけんかをして、あやまるなどして仲直りができる	28%	40%	53%	23%	27%	31%	1.24	1.50	1.69
【自己主張】									
自分が何をしたいかと言える	69%	71%	74%	39%	37%	32%	1.77	1.91	2.34
ほしいもの、してほしいことを大人に頼める	56%	68%	70%	47%	46%	39%	1.19	1.47	1.76
困ったことがあったら、まわりの人に助けを求めることができる	46%	55%	58%	28%	29%	27%	1.63	1.91	2.19
友だちからいやなことをされたら、「いや」、「やめて」などと言える	57%	59%	62%	33%	35%	33%	1.73	1.68	1.92
友だちと意見が違っても、自分の考えを主張することができる	39%	44%	48%	23%	23%	21%	1.68	1.95	2.32
【自己抑制】									
人の話が終わるまで静かに聞ける	25%	29%	40%	14%	20%	24%	1.85	1.49	1.70
ルールを守りながら遊べる	34%	41%	51%	20%	31%	38%	1.72	1.33	1.33
遊びなどで順番が回ってくるまで待てる	45%	56%	70%	30%	43%	44%	1.49	1.31	1.59
夢中になっていることでも、時間がくれば、次のことに移ることができる	23%	20%	31%	10%	12%	14%	2.46	1.65	2.15
遊びを中断されても、時間をおいて続けられる	26%	31%	45%	12%	17%	17%	2.28	1.83	2.64
自分がやりたいと思っても、人のいやがることはがまんできる	20%	26%	39%	12%	17%	23%	1.59	1.51	1.65
【がんばる力】									
物事をあきらめずに、挑戦することができる	29%	37%	37%	10%	13%	17%	2.81	2.85	2.13
どんなことに対しても、自信をもって取り組める	26%	28%	28%	9%	10%	11%	2.96	2.82	2.60
自分でしたいことがうまくいかないときでも、工夫して達成しようとするすることができる	23%	37%	43%	8%	14%	19%	2.76	2.72	2.31
一度始めたことは最後までやり通せる	16%	22%	30%	10%	14%	19%	1.62	1.60	1.62
【文字・数・思考】									
【文字】									
かな文字を読める	28%	48%	63%	42%	68%	83%	0.68	0.71	0.76
自分の名前をひらがなで書ける	22%	47%	77%	29%	69%	86%	0.78	0.68	0.89
自分の名前を読める	60%	74%	88%	64%	85%	90%	0.93	0.87	0.98
10までの数字を書ける	14%	42%	59%	18%	51%	78%	0.74	0.82	0.76
【数】									
1、2、3、4と、20までの数を正しく数えられる	43%	66%	86%	57%	79%	86%	0.75	0.84	1.00
指やおはじきなどを使って、数を足したり、引いたりすることができる	13%	36%	54%	11%	35%	58%	1.19	1.02	0.93
「1個、1本・・・」などの数え方ができる	19%	37%	53%	15%	30%	41%	1.27	1.23	1.29
【言葉】									
ことば遊びができる(しりとり、だじゃれなど)	44%	69%	82%	30%	61%	73%	1.44	1.13	1.11
自分のことばで順序をたてて、相手にわかるように話せる	31%	39%	46%	21%	30%	35%	1.47	1.31	1.33
見聞きしたことをまわりの人に話をするができる	54%	61%	63%	43%	59%	62%	1.24	1.03	1.03
絵本や図鑑を1人で読める	29%	41%	57%	23%	44%	60%	1.25	0.94	0.95
【分類する力】									
ことばで「多い」「少ない」「大きい」「小さい」を正しく使える	69%	75%	80%	40%	51%	58%	1.73	1.46	1.37
身の回りにあるものの長さや大きさ、高さを直接並べて比べられる	51%	65%	70%	33%	45%	56%	1.53	1.44	1.24
形について同じ仲間を集められる	70%	79%	73%	56%	68%	75%	1.26	1.17	0.98
生活の場面で形にかかわることばを使う(まる、さんかく、しかくなど)	77%	74%	72%	57%	68%	73%	1.35	1.09	0.99
【その他】									
えんぴつを正しく持てる	21%	39%	49%	24%	38%	45%	0.85	1.02	1.08
英語で簡単なあいさつが言える	9%	18%	23%	11%	21%	30%	0.83	0.85	0.76

園での経験の48項目の質問を概念ごとに集計し、すべての質問項目の結果と、既存園との比較を一覧にしたものが表4である。森のようちえんでの保育では、特に【がんばる力】(森のようちえん35%、既存園16%)が身につけており、森などの思い通りにならない自然環境の中で「物事をあきらめずに、挑戦することができる」「どんなことに対しても、自信をもって取り組める」「自分でしたいことがうまくいかないときでも、工夫して達成しようとするすることができる」といった、幼児期に育むことが難しい力が身につけている。

一方、【文字】に関しては既存園の子どもの方が身につけており、森のようちえんの子どもが一日のほとんどを過ごす自然環境の中では、文字を見る経験が少ないことや子ども同士が文字を読んだり書いたりする様

子を見てお互い刺激を受ける機会が少ないことが要因であると推測する。《文字・数・思考》の中では、【文字】の4項目と【数】の「1, 2, 3, 4 と, 20 までの数を正しく数えられる」、【その他】の「英語で簡単なあいさつが言える」が森のようちえんの方が低い結果であった。読み書きや計算などの机上での学びに関する項目は既存園より低い結果であったが、【言葉】の「自分のことばで順序をたてて、相手にわかるように話せる」や【分類する力】の「ことばで「多い」「少ない」「大きい」「小さい」を正しく使える」「身の回りにあるものの長さや大きさ、高さを直接並べて比べられる」など、実践での論理的思考は高い結果であった。

3.4 学びに向かう力（非認知能力）の育ちと園での経験

「3.3 園での経験と育ち」の《学びに向かう力（非認知能力）》は、森のようちえんの子どもの方が全ての項目で高い結果であった。その要因を検証するため、《学びに向かう力（非認知能力）》24項目と「3.1 園での経験」の14項目の相関分析を行い、【好奇心】【協調性】【自己主張】【自己抑制】【がんばる力】の各概念のうち、概念すべての項目に相関が認められた経験と相関係数を表に表した。記載している項目は全て0.1%水準で有意(両側)であった。表5～表9は、5つの概念ごとに相関係数を表記したものである。

【好奇心】では、14項目中「好きなことや得意なことをいかして遊ぶ」「遊びに自分なりの工夫を加える」の2項目に弱い正の相関が認められ、これらの経験が【好奇心】の育ちに正の影響を与えていることが示唆された。

表5 好奇心と園での経験の相関係数

	好きなことや得意なことをいかして遊ぶ。	遊びに自分なりの工夫を加える。
好きなことに集中して遊ぶ。	.286***	.312***
わからないことについて、「なぜ、どうして」など、まわりに質問ができる。	.251***	.215***
新しいことに好奇心を持てる。	.243***	.240***
生き物や植物に興味を持てる。	.215***	.209***
工夫して遊ぶ。	.301***	.348***

*** $p < .001$

表6 協調性と園での経験の相関係数

	遊びに自分なりの工夫を加える。	目標に向け友だちと協力して取り組む	友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る。	見通しをもって、遊びをやり遂げる。
人に自分の気持ちを伝えたり、相手の意見を聞いたりすることができる。	.249***	.201***	.293***	.247***
遊ぶとき、「いれて」「一緒に遊ぼう」「貸して」など友達に声掛けができる。	.202***	.201***	.240***	.205***
友達とけんかしても、謝るなどして仲直りができる。	.250***	.273***	.309***	.283***
遊びなどで友達と協力することができる。	.323***	.308***	.344***	.292***

*** $p < .001$

【協調性】では、「遊びに自分なりの工夫を加える」「目標に向け友だちと協力して取り組む」「友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る」「見通しをもって、遊びをやり遂げる」の4項目に弱い正の相関が認められた。

表7 自己主張と園での経験の相関係数

	遊びに自分なりの工夫を加える。	友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る。
友達と意見が違っても、自分の考えを主張することができる。	.234***	.207***
困ったことがあったら、周りの人に助けを求めることができる。	.282***	.290***
友達からイヤなことをされたら、「いや」「やめて」などと言える	.236***	.238***
自分が何をしたいか言える。	.255***	.263***
欲しいもの、して欲しいことを大人に頼める。	.234***	.244***

*** $p < .001$

【自己主張】では、「遊びに自分なりの工夫を加える」「友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る」の2項目に弱い正の相関が認められた。

表8 自己抑制と園での経験の相関係数

	見通しをもって、遊びをやり遂げる。
夢中になっていることでも、時間が来れば、次のことに移ることができる。	.245***
人の話が終わるまで静かに聞くことができる。	.256***
自分がやりたいと思っても、人のいやがることは我慢できる。	.249***
遊びを中断されても、時間をおいて続けられる	.295***
ルールを守りながら遊べる。	.265***
遊びなどで順番が回ってくるまで待てる。	.223***

*** $p < .001$

【自己抑制】では、「見通しをもって、遊びをやり遂げる」の1項目に弱い正の相関が認められた。

表9 がんばる力と園での経験の相関係数

	好きなことや得意なことをいかして遊ぶ。	遊びに自分なりの工夫を加える。	目標に向け友だちと協力して取り組む。	挑戦的な活動に取り組む。	先生に頼らずに製作(ものづくり)する。	友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る	見通しをもって、遊びをやり遂げる。
どんなことに対しても、自信を持って取り組める。	.263***	.265***	.228***	.225***	.238***	.259***	.322***
ものごとをあきらめずに、挑戦することができる。	.300***	.327***	.243***	.288***	.273***	.302***	.288***
自分でしたいことが上手いかないつでも、工夫して達成しようとする事ができる。	.246***	.317***	.222***	.238***	.300***	.344***	.275***
一度始めたことは最後までやり通せる。	.256***	.312***	.218***	.248***	.263***	.289***	.313***

*** $p < .001$

【がんばる力】では、「好きなことや得意なことをいかして遊ぶ」「遊びに自分なりの工夫を加える」「目標に向け友だちと協力して取り組む」「挑戦的な活動に取り組む」「先生に頼らずに製作(ものづくり)する」「友だちと関わる中で、友だちのいいところや得意なことを知る」「見通しをもって、遊びをやり遂げる」の7項目に弱い正の相関が認められた。

《学びに向かう力(非認知能力)》の5概念48項目に、全く相関が認められなかった「園での経験」項目は、「(小学校のように)全員で同じことに取り組む」「先生が決めた活動をする」「小学校のように時間

割に沿って活動をする」「見本通りに製作（ものづくり）をする」の4項目で、保育者主導の一斉保育や受動的な活動に関する項目であった。また、相関が48項目中5項目未満だった活動は、「自由に好きな遊びをする」（2項目）、「行事（運動会や生活発表会など）で友だちと協力し合う」（4項目）、「行事の役割（劇の配役やリレーの順番など）を子どもたちが決める」（2項目）といった一斉に活動する行事に関する内容と自由に好きな遊びをするという項目であった。

3.5 学びに向かう力（非認知能力）の育ちと母親のかかわり

《学びに向かう力（非認知能力）》が高い要因を検証するため、「3.2 母親の子どもへの意識とかかわり」との相関分析を行った。母親のかかわり20項目と【好奇心】【協調性】【自己主張】【自己抑制】【がんばる力】の概念ごとの全ての項目に相関が認められたのは、【自己抑制】では1項目、【がんばる力】では4項目であった。表10は、【自己抑制】と母親のかかわりの相関係数、表11は、【がんばる力】と母親のかかわりの相関係数を概念ごとに表記したものである。記載している項目は全て0.1%水準で有意（両側）であった。

表10 自己抑制と母親のかかわりの相関係数

	子どもが何をしたいのかを把握している。
夢中になっていることでも、時間が来れば、次のことに移ることができる。	.206***
人の話が終わるまで静かに聞くことができる。	.257***
自分がやりたいと思っても、人のいやがることは我慢できる。	.252***
遊びを中断されても、時間をおいて続けられる。	.331***
ルールを守りながら遊べる。	.269***
遊びなどで順番が回ってくるまで待てる。	.203***

*** $p < .001$

表11 がんばる力と母親のかかわりの相関係数

	子どもがやりたいことを尊重し、支援している。	子どもが自分でやろうとしているとき、手を出さずに最後までやらせようとしている。	子どもが何をしたいのかを把握している。	どんなことでも、まず子どもの気持ちを受け止めるようにしている。
どんなことに対しても、自信を持って取り組める。	.255***	.219***	.287***	.257***
ものごとをあきらめずに、挑戦することができる。	.282***	.300***	.227***	.280***
自分でしたいことが上手くいかないときでも、工夫して達成しようとする事ができる。	.247***	.233***	.227***	.226***
一度始めたことは最後までやり通せる。	.246***	.269***	.283***	.270***

*** $p < .001$

表10【自己抑制】では、「子どもが何をしたいのかを把握している」1項目、表11【がんばる力】では、「子どもがやりたいことを尊重し、支援している」「子どもが自分でやろうとしているとき、手を出さずに最後までやらせるようにしている」「子どもが何をしたいのかを把握している」「どんなことでも、まず子どもの気持ちを受け止めるようにしている」の4項目に弱い正の相関が認められた。

【好奇心】【協調性】【自己主張】【自己抑制】【がんばる力】48項目と全く相関が認められなかった「母親のかかわり」は、「子どもが悪いことをした場合、叱っている」「友達と仲良くするように教えている」「小学校入学までに読み書きができるようにしている」「私が決めたことに対しては、子どもに従わせてい

る」「叱るよりも褒めるようにしている」「子どもが何かをするとき、できるように手伝っている」「嫌なことがあっても、我慢するように教えている」「指図せずに、子どもに自由にさせている」「子どもに、何事もどんなふうにしたら良いかを、細かく教えている」「何事にも子どもの意見や要望を優先させている」「私が一緒にいてあげないと、子どもは自分のことができないのではないかと心配になる」「私がやってはいけないと言ったことを子どもがしたとき、黙ってみている」の12項目であった。相関が5項目未満だった項目は、「子どもの健康に気をつけている」(3項目)、「子どもを傷つけるような言動をした場合は、子どもに謝る」(1項目)であった。

4. まとめ

4.1 園での経験の特徴

森のようちえんでの経験を既存園と比較すると、【遊び込む経験】の割合が17.6ポイント高く、【設定的な活動】が35.4ポイント低く、【共同的な活動】は同程度であるという特徴が認められた。森のようちえんでは、遊びを通して工夫や探求をし、子どもが主体的に遊びこむような経験が多いという結果であった。ベネッセ(2016)の研究で「幼稚園や保育園で“遊びこむ経験”が多いほうが「学びに向かう力」が高い」との検証結果がみられるが、本研究でも【遊びこむ経験】が多い森のようちえんの子どもの方が既存園よりも【学びに向かう力】が明らかに高い結果であった。

4.2 【学びに向かう力(社会情動的スキル)】の育ちに影響を与える園での経験

【学びに向かう力】の育ち24項目中、10項目以上に相関が認められた【園での経験】と【保護者のかかわり】を図示し、【学びに向かう力】の概念ごとのすべての項目と相関があったものは実線で、1項目のみ相関が認められなかったものは点線で関係性を示したものが図3である。太字枠の概念(項目)は、そのグループの中で最も相関した項目数が多かったものである。

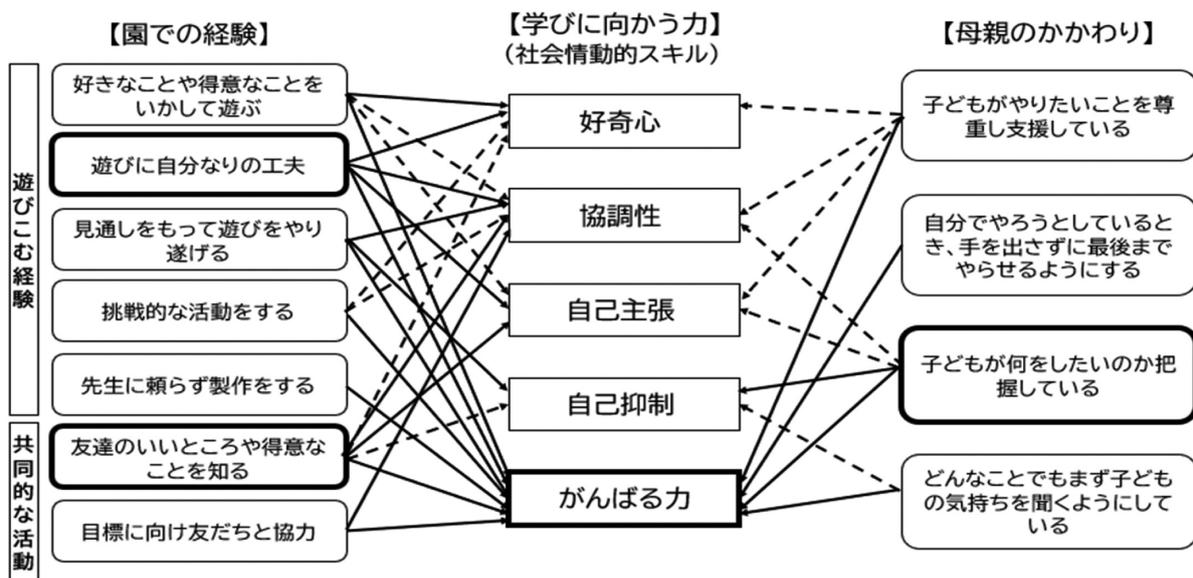


図3 【学びに向かう力(社会情動的スキル)】の育ちに影響を与える要因

【学びに向かう力（社会情動的スキル）】に相関が認められた【園での経験】は、7項目中5項目が【遊びこむ経験】であり、【学びに向かう力】の育ちには【遊びこむ経験】が重要な要因であることが改めて示唆された。【遊びこむ経験】6項目のうち唯一相関が少なく、この図に入らなかった項目が「自由に好きな遊びをする」であった。【学びに向かう力（社会情動的スキル）】は、好きな遊びをしているだけでは育たないといえ、「遊びに自分なりの工夫を加える」「好きなことや得意なことをいかして遊ぶ」「見通しを持ってやり遂げる」といった、遊びを通して考え、予測し、探求し、諦めずやり遂げるといった経験が重要であるといえる。【共同的な活動】では、「友だちのいいところや得意なことを知る」や「目標に向け友だちと協力する」ことが重要であることが示唆され、「行事で友だちと協力し合う」「行事の役割を子どもたちが決める」といった、行事での一過性の活動ではなく、日常の活動の中で肯定的に友だちを捉え協力する経験が重要である。また、【設定的な活動】と【学びに向かう力】の育ちの間に全く相関が認められず、受動的な一斉保育は【学びに向かう力（社会情動的スキル）】の育ちには影響を与えないことが示唆された。

4.3 【学びに向かう力（社会情動的スキル）】の育ちに影響を与える母親のかかわり

【学びに向かう力】の育ちに影響を与える【母親のかかわり】は、概念に偏りはなく【教化的かかわり】以外の各1項目ずつであった。一番影響があったのは「子どもが何をしたいのか把握している」であり、他の項目も子どもの主体性を尊重し、子どものやりたい気持ちを理解し、手を出さず見守るかかわりとの相関が強かった。子どもの育ちに影響のなかったかかわりは、「子どもが悪いことをした場合叱っている」「友だちと仲良くするように教えている」「私が決めたことに対しては子どもに従わせている」といった教化的な内容であった。子どものためにと良いと思うことを教えることは子どもの育ちには効果がなく、母親の思いや願いを優先するのではなく、子どもを信じて肯定的に捉え、一人の人間として尊重することが子どもの育ちに有効であることが示唆された。

【学びに向かう力】の育ちで、【園での経験】と【母親のかかわり】のすべての要因と相関が認められたのは【がんばる力】であった。【がんばる力】は、園での生活と育ちの図3で一番身につけている割合が低かった項目である。これらのことから、【がんばる力】の育ちには多くの経験や母親のかかわりが影響しており、身につけるためには園での多様な主体的な経験や母親の肯定的で受容的なかかわりが必要であるといえる。森のようちえんの【がんばる力】の結果が高かったことは、多様な経験と母親の適切なかかわりができていることの証であるといえる。

4.4 本研究の限界と今後の研究

今回の調査では、森のようちえんの子ども《生活習慣》《学びに向かう力》《文字・数・思考》が既存園と比較し概ね高い結果であった。しかし本調査は、保護者が回答するという形で行われており、保護者自身の成長に関する問いで、「子どもの得意なことや良さに気づいた」が既存園と比較し1.9倍という結果であった。森のようちえんの保護者は、子どもの力を肯定的に捉える傾向があるため、評価が高くなっているという可能性も否定できない。本調査は、保護者の主観を通した評価であるという限界がある。今後は、育ちの要因を保育者のかかわりなどからも検討し、複眼的、縦断的に検証していきたい。

【謝辞】

本研究を行うに当たり、アンケートを協同で作成していただいた森のようちえんさんぼみち NPO 法人ネイチャーマジック理事長 野澤俊索様に、心より感謝申し上げます。また、アンケートに快くご協力いただきました全国の森のようちえんの皆さま、保護者の皆さまにも心よりお礼申し上げます。

【引用・参考文献】

- ・ベネッセ：幼児期から小学4年生の家庭教育調査・縦断調査 最終閲覧 2021.12.
https://berd.benesse.jp/up_images/publicity/pressrelease_20190225_.pdf, 2019,
- ・ベネッセ：園での経験と幼児の成長に関する調査 最終閲覧 2021.12.
<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=4940>, 2016.
- ・今村光章, 2014, 「現代の学校教育の再考契機としての森のようちえんの意義ー「自然学校としての森のようちえん」を手がかりにー」, 『環境教育』, 23 (3), pp.4-16.
- ・金子龍太郎・西澤彩木：森のようちえんに通う一女兒の縦断的観察：主体性の育ちを中心に：3年間記録の1年目」, 『幼年教育研究年報』, 39, pp.71-80, 2017.
- ・河崎晃博：福井市清水北地区における「森のようちえん」活動, 『環境教育』, 26, pp.60-66, 2016.
- ・経済協力開発機構 (OECD)：社会情動的スキルへ学びに向かう力へ, 明石書店, 2018.
- ・木戸啓絵：ドイツのシュタイナー幼稚園における「森の幼稚園教育」の導入, 教育研究:青山学院大学教育学会紀要 (57), pp.21-37, 2013.
- ・木戸啓絵：森の幼稚園の事例研究～ホリスティック教育の観点から～, 青山学院大学教育学会紀要』, 56, pp.23-33, 2012.
- ・文部科学省：幼稚園教育要領, 2017.
- ・西澤彩木・田中裕喜・菅眞佐子：幼児における自然環境についての学び：「森のようちえん」の活動を通して (1), 『滋賀大学環境総合研究センター研究年報』, 13(1), pp.23-37, 2016.
- ・NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟, <http://morinoyouchien.org/>, 2022.1.7.
- ・征矢里沙・木俣知大：世界の幼児教育と「森と自然を活用した保育・幼児教育」の潮流, 公益社団法人国土緑化推進機構編『森と自然を活用した保育・幼児教育ガイドブック』, 風鳴舎, 2018.
- ・杉山浩之・牧亮太・黒田愛乃：森のようちえんにおける子どもへの教育効果～保護者アンケート及びインタビューを通して～, 『広島文教教育』, 30, pp.23-32, 2015.
- ・山口三和・酒井真由子・木戸啓絵・大道香織：幼児期の経験がレジリエンスと自尊感情に及ぼす影響ー「森のようちえん」の卒園児に注目してー, 上越教育大学研究紀要第40巻, pp.495-506, 2021.
- ・山口美和：「森のようちえん」をめぐるポリティークー「春愁型自然保育」検討委員会の議事録分析を通してー, 東京大学大学院教育学研究科 基礎教育研究室紀要, 第42号, pp.215-225, 2016.
- ・柳原高文：「森のようちえん」における園児の「アクティブ・ラーニング」および「生活科」とのかかわり, 名寄市立大学紀要, 12, pp.11-21, 2018.
- ・吉澤英里・藪田弘美・前川真姫・安久津太一：森のようちえんの遊びで観察される「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の特徴?認可保育園との比較に基づく一考察?, チャイルド・サイエンス = Child science, 子ども学 21, pp.58-61, 2021.